

# FUKUSHIMA 市民 インタビュー

「温泉むすめを通じて飯坂を全国へ」  
飯坂温泉観光協会常任理事

吉川屋 畠 正樹さん

🍷 温泉むすめのきっかけは？

「温泉むすめの飯坂真尋ちゃんって知ってますか？」と、ファンの方から尋ねられたことがきっかけです。その時はまだ知りませんでしたが、詳しく調べていくうちに、温泉むすめは温泉地の活性化をテーマにしたコンテンツだと分かりました。これは面白いと思い、飯坂温泉観光協会と青年部を中心に、温泉むすめの企画会社のエンバウンドさんと協力しながらプロジェクトを立ち上げ、飯坂真尋ちゃん



▶ 畠 正樹さんと妻の暁子さん

🍷 お勧めの楽しみ方を教えてください。

旅館やお土産屋さんなどで、パネルを設置しています。また、クリアファイルやタオルなどを販売していますので、パネルやグッズ探しに、飯坂を散策するのがお勧めです。散策中に、足湯や飯坂ならではのグルメも楽しめます。9月から始まる熱湯スタンプラリーの各公衆浴場にもポスターなどを設置する予定です。なので、写真を撮りながら巡ってほしいです。

🍷 新しい発見などありましたか？

飯坂には公衆浴場やけんか祭り、ラーメンや円盤餃子など魅力的なものがたくさんあります。それらをどうやって外に向かって発信していくかがカギです。一方で、私たちも飯坂真尋ちゃんのグッズを作っているうちに「飯坂ってこういうところがあるよね」と、魅力を再認識しました。都市圏で流行している企画をその

🍷 苦労したことは？

苦労は感じないですね。全てが初めてのことで、これをきっかけとしてやることはたくさんあると感じています。青年部をはじめ、地域の皆さんのご理解とご協力があることが励みになっています。とてもありがたいです。

🍷 今後の展望は？

温泉むすめは全国の温泉地を擬人化したものなので、今までになかった全国の温泉地とのコラボレーションができません。今後は、全国の温泉地とのネットワークも大切に築いていきたいです。お客さんが飯坂を好きになって、飯坂との絆がグッと深まり、飯坂を自分の居場所だと思えば、何度も飯坂に訪れていただけるようになれば嬉しいです。



©温泉むすめゲームプロジェクト



## We Love ♥ ふくしま！ 第19回『わらじまつり』

8月2～4日開催された福島わらじまつり。今年で50回目を迎え、新旧の祭りが繰り出され、大いに盛り上がりました。一日目は「平成わらじまつりファイナル」。昭和から平成にかけて親しんだわらじおどりに、ダンシングソーダナイト、わらじ競争の踊り納め。多くの市民が名残を惜しみました。二日目は新わらじまつりで、三日目は大わらじの奉納と後夜祭としての盆踊り。新わらじおどりは、古関裕而さん作曲の「わらじ音頭」をベースに、本市ゆかりの友友良英さんの総合プロデュースで、勇壮な鳴り物が入り躍動的な踊りに生まれ変わりました。6月の東北絆まつりで初披露されましたが、今回フルサイズで初登場。ドラマティックなストーリー、全体としての一体性がありました。歌舞伎風の口上に始まり、信夫の里の大蛇と大わらじの戦いの伝説を描いた「わらじまつり物語※」の語り、文化性高い「わらじ太鼓みだれ打ち」へと続きます。そして新わらじおど

りが展開され、フィナーレでは、踊り手、担ぎ手、鳴り物奏者、観客が一体となって入り乱れ、その混沌の中を大わらじが悠然と移動し、そびえ立っていく様はまさに荘厳でした。初めてとあって、新わらじおどりの参加者は少なめでしたが、お年寄りなどには動きの負担が少ない「崩し」もできます。来年はぜひ多くの方々に参加していただきたいと思います。新わらじまつりは、福島市民が世界に誇れる祭りとなり、日本・世界各地から人々を引き寄せ魅了するものになると確信しました。世界少年野球大会で来福していた14カ国の子どもたちも興奮の目で見入っていました。今はまだ30万人の人出ですが、100万人が集まる祭りを目指して、市民みんなで大きく育てていきましょう。

\*東北6県都の祭りでは、平成30年度、入場者数の最大は青森ねぶた祭で280万余。最少は福島わらじまつりの29万人、次いで山形花笠まつりの99万人となっている。



福島市長 木幡 浩

